

産婦人科

子宮体がんのミニトピックス

- ・早期子宮体がんに対する腹腔鏡手術準備中
- ・子宮体がんと大腸がん
- ・産婦人科以外の先生にもお願いしたいこと

産婦人科医長(婦人科担当) 衛藤 貴子
Eto Takako

★増加する子宮体がん

ひとくちに子宮がんと言われてますが、子宮の入口の子宮頸がん、子宮の奥の方の子宮体がんがあり、まったく異なるがんです。

我が国の子宮体がんの罹患率は、増加の一途をたどっています(図1)

(減少していたかと思われた子宮頸がんも、近年は増加していることは大変な問題なのですが、これはまたの機会に。)

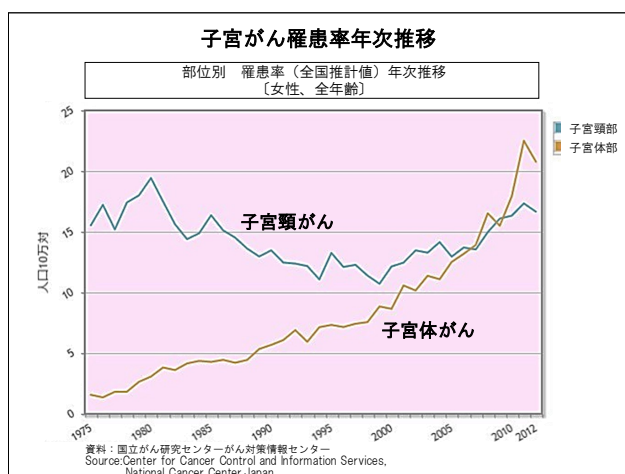


図1.

★高血圧、糖尿病でかかりつけの患者さんに子宮体がんが隠れているかも

子宮体がんは閉経前後の40代後半から増加します。50代、60代がピークですが、昨年当院で治療した子宮体がんの約1割は80代の方でした。

主なりリスク因子は、閉経が遅い、女性ホルモンの異常(月経不順、排卵障害)、妊娠出産の経験がない・少ない、肥満、高血圧、糖尿病などです。

★子宮体がんの症状は 不正性器出血

まだ閉経していない人では正常な月経以外の出血があったり、閉経後に出血がみられる人は、子宮頸がん、子宮体がんの両方の検査が必要です。

しかし、その出血を異常と認識していない患者さんが多いことといたら!

50歳前後で「生理のあがるころは、へんな出血があるもんち思っちゃった。みんな、そんなん言いよった。」

70歳で出血しても「また生理がはじまったっと思っちゃった。」

2年も出血が続いているのに「どーもなかったけえ。」とは・・。

みなさんやっぱり、なかなか産婦人科までたどり着いてくれません。

また、子宮がん検診で異常なかったから大丈夫と誤解している方もいます。“子宮がん検診”は“頸がんの検診”で、体がんの検診ではありません。

地域の先生方の患者さんで、怪しげな出血のありそうな方は、是非、産婦人科を受診するようすすめてください。お願いします。

★子宮体がんの多くは 予後の良いI期

進行体がんの治療には難渋しますが、一般的に早期体がんの予後は良好です。日本産科婦人科学会腫瘍委員会の報告によると、2015年に治療した子宮体がん患者のうちI期(がんが子宮体部に限局)は73.3%にもものぼります。2010年に治療したI期症例の5年生存率は約94%でした(図2)。

こわがらずに、早めを受診していただきたいものです。

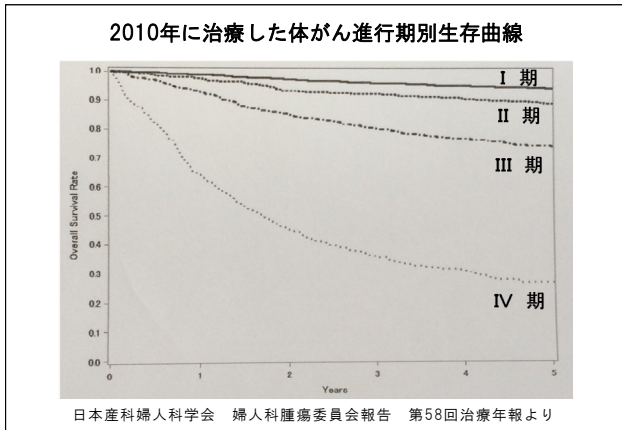


図2.

★ただいま子宮体がんに対する腹腔鏡下手術を準備中

子宮体がんに対する基本の治療は手術療法で、基本術式は、子宮全摘+両側付属器（卵巣・卵管）摘出+リンパ節郭清・生検です。

子宮体がんの腹腔鏡下手術に関する海外からの6つの無作為試験により、腹腔鏡手術は従来の開腹術に比較して、予後は同等であると報告されました。腹腔鏡手術のデメリットは、手術時間が延長すること、腹腔鏡に習熟することが必要であること、メリットは、疼痛の軽減、早期離床、出血量・輸血リスクの減少、術後合併症の低下などです。

本邦では、I期の中でもさらにリスクの低い早期子宮体がんに対する腹腔鏡下手術が、2014年より保険診療として認められました。

子宮体がんに対する腹腔鏡下手術の適応

- ・組織学的に 高・中分化の類内膜腺癌
- ・CTなどの画像診断で、遠隔転移やリンパ節など子宮外への転移がないこと
- ・MRIで子宮頸部への進展がなく、筋層浸潤が1/2以下であること
- ・子宮が腔から回収することのできる大きさであること

これまで当科では腹腔鏡下手術は良性疾患に限られていました。ようやくこの4月に、九州大学病院で子宮体がんに対する腹腔鏡下手術を執刀してきた河野善明先生が仲間に加わり、この手術を施行できる施設基準を満たすことができました。腹腔鏡下手術を開始するべくただいま準備中です（2017年6月現在）。

★リンチ症候群 子宮体がん和大腸がんとの関連

遺伝性悪性腫瘍の中のリンチ症候群というのをご存じでしょうか？ DNAミスマッチ修復（MMR）遺伝子（*MSH2*, *MLH1*, *MSH6*など）の異常が関与しているといわれています。以前は遺伝性非ポリポーシス大腸癌（HNPCC）とよばれていましたが、大腸がんだけでなく、子宮体がん、胃がん、腎盂・尿路がん、胆道系がん、小腸がん、中枢神経腫瘍などの発がんリスクが高いことが知られています（表1）。女性では、子宮体がん和大腸がんの発症リスクは同等ともいわれています。

また、リンチ症候群か否かにかかわらず、子宮体がんを発症した方には、大腸がんなどリンチ症候群関連のがんを重複したり、家族にもそれらの発症が多かったりすることも報告されています。私達も既往歴や家族歴をよく聞いて、本人だけでなくご家族にも、子宮体がんや大腸がんの検査をおすすめするようこころがけています。

がん種	一般集団生涯リスク	Lynch症候群生涯リスク
大腸がん	5.5%	52~82%
子宮体がん	2.7%	25~60%
胃がん	<1%	11~19%
卵巣がん	1.6%	9~12%
胆道系がん	<1%	2~7%
尿路系がん	<1%	4~5%
小腸がん	<1%	1~4%
中枢神経系	<1%	1~3%

日本産科婦人科学会雑誌64巻4号 p.1321-1329より引用

表1.

★おわりに

産婦人科としては中原部長を筆頭として計9名の体制となりました。婦人科腫瘍のみならず、正常からハイリスクまで含めた周産期医療、および産婦人科救急を3本の柱として診療にあたっています。

地域の皆さまが、病気になっても元気に楽しく過ごすことのできるよう、全力でサポートして参ります。どうぞ、よろしくお願いたします。

